

神戸天然物化学株式会社

2023年3月期第1四半期 決算補足説明資料

証券コード：6568

2022年8月10日



1. 2023年3月期1Q決算実績



2023/3月期1Q決算におけるポイント

1

売上高25%増、経常利益は黒字転換も、スロースタートな傾向に変化なし。当期も下期偏重の傾向は継続する見通し

2

2023/3月期見通しは据置き。受注状況(獲得可能性の高い案件を含む)は1Q末時点で通期見通しの9割程度を積み上げ

3

サプライチェーンリスクや資材高騰について、足許での影響は少ないものの、より不透明感が強まり、いっそう懸念される状況に



1-1. 2023年3月期1Q期経営成績

- 売上高25%増、経常利益は前年比+1.3億円と黒字転換
- 機能材料分野にて医薬品関連材料を中心に売上を伸ばし全体の増収増益を牽引。医薬分野は下期偏重を見通しており、スロースタートは想定内。
- バイオ分野は量産製品販売の2Qへの期ズレが影響し、前年比20%減収

経営成績の推移

(百万円)	2021/3期	2022/3期		2023/3期		2023/3期 進捗率	1Q前年比較	
		1Q	通期	1Q	通期見通し		差異	変化率
売上高	6,029	975	7,440	1,222	7,500	16.3%	+246	+25.3%
機能材料分野	2,150	468	2,858	712	2,450	29.1%	+243	+52.0%
医薬分野	2,937	228	3,286	284	3,580	8.0%	+56	+24.7%
バイオ分野	940	278	1,295	224	1,470	15.3%	△53	△19.3%
営業利益	635	△46	1,094	79	1,100	—	+126	—
経常利益	677	△45	1,102	81	1,110	—	+127	—
経常利益率	11.2%	△4.7%	14.8%	6.6%	14.8%	—	—	+11.3pp
当期純利益	399	△104	643	51	770	—	+155	—
EBITDA*	1,575	168	2,023	293	2,036	14.4%	+124	+73.9%
EBITDAマージン*	26.1%	17.3%	27.2%	24.0%	27.2%	—	—	+6.7pp

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



1-2. 四半期別経営成績推移

- 機能材料分野は前年から引続き好調。1Qにおいても全社売上の拡大を牽引
- 一方、医薬分野は下期偏重の展開を想定。例年と同様、1Qはスロースタートに
- 生産能力拡大を目指し、積極投資を継続

経営成績の推移（四半期推移）

	2021/3期				2022/3期				2023/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	1,064	1,525	1,325	2,113	975	1,866	1,556	3,041	1,222
機能材料	494	638	586	432	468	717	718	954	712
医薬	476	631	566	1,262	228	804	588	1,665	284
バイオ	93	255	173	418	278	344	250	421	224
営業利益	△8	204	99	339	△46	269	250	621	79
経常利益	12	215	94	354	△45	273	252	623	81
経常利益率	1.2%	14.1%	7.1%	16.8%	△4.7%	14.6%	16.2%	20.5%	6.6%
当期純利益	3	164	△5	237	△104	189	168	389	51
EBITDA*	237	428	319	590	168	488	493	872	293
EBITDA マージン*	22.3%	28.1%	24.1%	27.9%	17.3%	26.2%	31.7%	28.7%	24.0%

* EBITDA=営業利益+減価償却費で算出

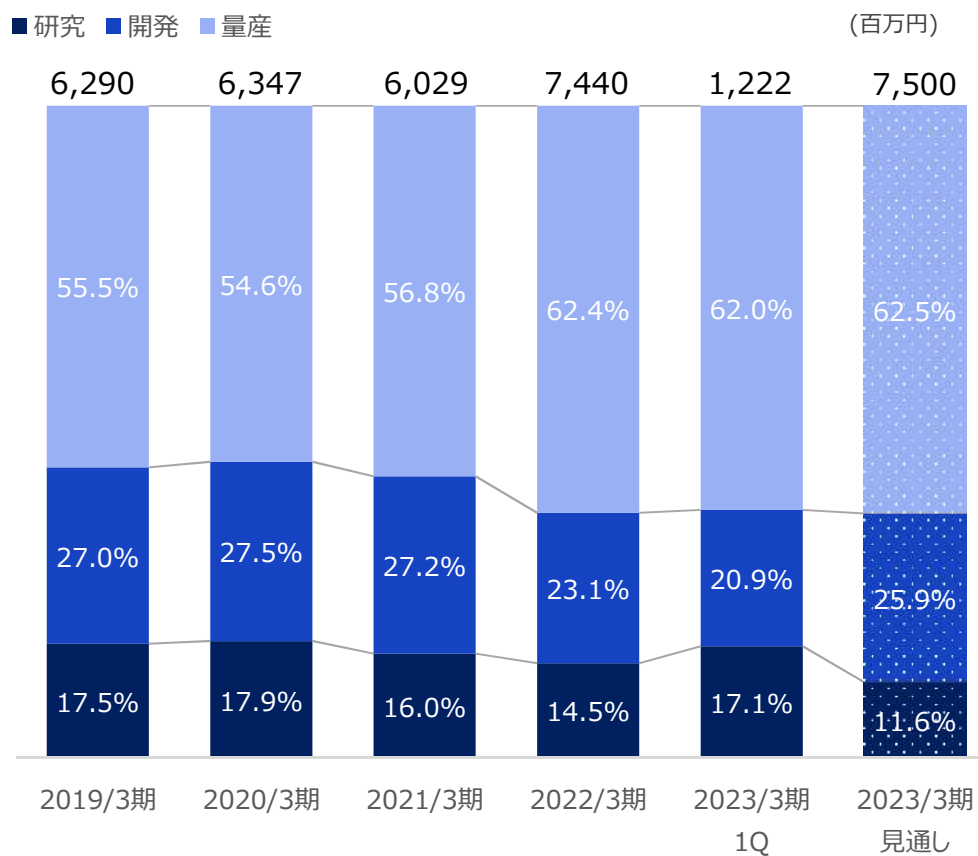




1-3. ステージ別売上構成

- ステージ別売上内訳では、前年から量産案件が全体の6割を超えて推移
- 量産ステージの好調は地道なステージアップ戦略の奏功によるもの。量産ステージで収穫するパターンが確立
- 一方、ステージアップモデルにおける「種蒔き」に相当する研究・開発分野も進捗。量産ステージ拡大への重要な入口であり、中期的な売上好調を実現するための重要基盤と位置づけ

ステージ別売上割合の動向



- 機能材料分野
エレクトロニクス関連材料および医薬関連材料の量産製品が好調
- 医薬分野
開発ステージ案件が減少も、量産ステージおよび研究ステージ案件にて相殺、上積み
- バイオ分野
期ズレ影響などにより量産ステージ案件が減少
研究、開発ステージ製品販売増も吸収できず

※パーセンテージは全社売上に占める割合

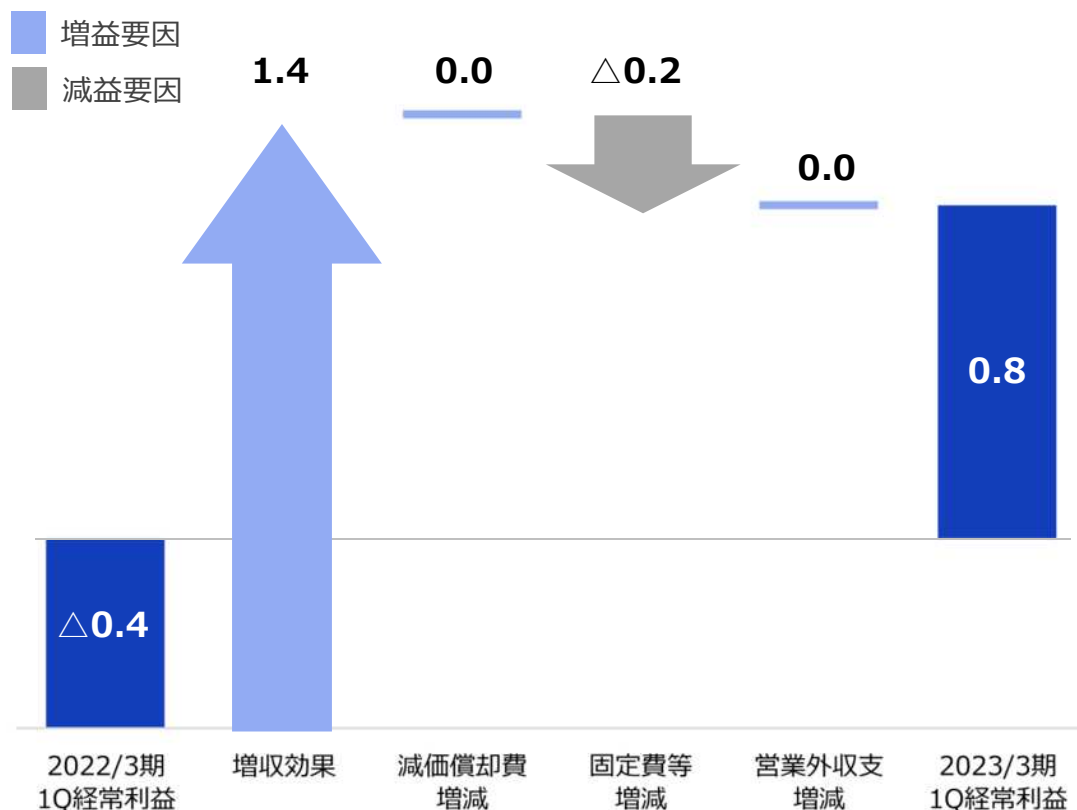


1-4. 2023年3月期1Q 対前年比経常利益増減要因分析

- 増収効果が主な増益要因。特に機能材料分野の量産案件が好調に推移し、設備稼働率も高水準を維持
- コスト面では、人件費の上昇が主な減益要因として発生するも、増収効果で吸収
- 研究開発費は微増。1Qは自社研究よりも、量産案件向け製造法開発などの受託研究にむしろ注力

2023年3月期経常利益 対前年比増減要因

(億円)



● 増収効果 +1.4億円

- 機能材料分野：量産製品中心に需要好調
- 医薬分野：下期偏重ながらも売上増加
- バイオ分野：期ズレの影響もあり減収

● 減価償却費 +0.0億円

減価償却費 2.1億円

● 固定費等変動 △0.2億円

人件費増 △0.3億円



1-5. 2023年3月期1Q 財政状態

- 前期4Qに急増した売上債権は順調に回収。未払税金等の支払も順調に進捗し、総資産は10億円縮小
- コロナ禍や地政学等によるサプライチェーンリスクに備え、現預金は一定水準以上を維持する方針を継続。ただし、自己資本比率は80%と、財務安全性に変化なし

財政状態の推移

(百万円)	2021/3期	2022/3期	2023/3期 1Q	前期末差異
流動資産	5,137	6,347	5,370	△977
現預金	1,962	1,973	2,253	+279
売上債権	1,141	2,519	715	△1,803
棚卸資産	1,742	1,771	2,248	+476
固定資産	7,643	7,604	7,538	△65
総資産	12,780	13,951	12,908	△1,042
負債	2,660	3,376	2,600	△776
有利子負債	1,443	1,676	1,366	△309
未払金/未払税	431	827	324	△503
純資産	10,120	10,575	10,308	△266
負債純資産合計	12,780	13,951	12,908	△1,042

前期末に発生した売上債権
は順調に回収

医薬分野における棚卸資産
増加

設備投資 : 2.7億円
減価償却費 : 2.1億円

短期借入金の完済

未払費用、未払税などの
支払が進捗

自己資本比率79.9%

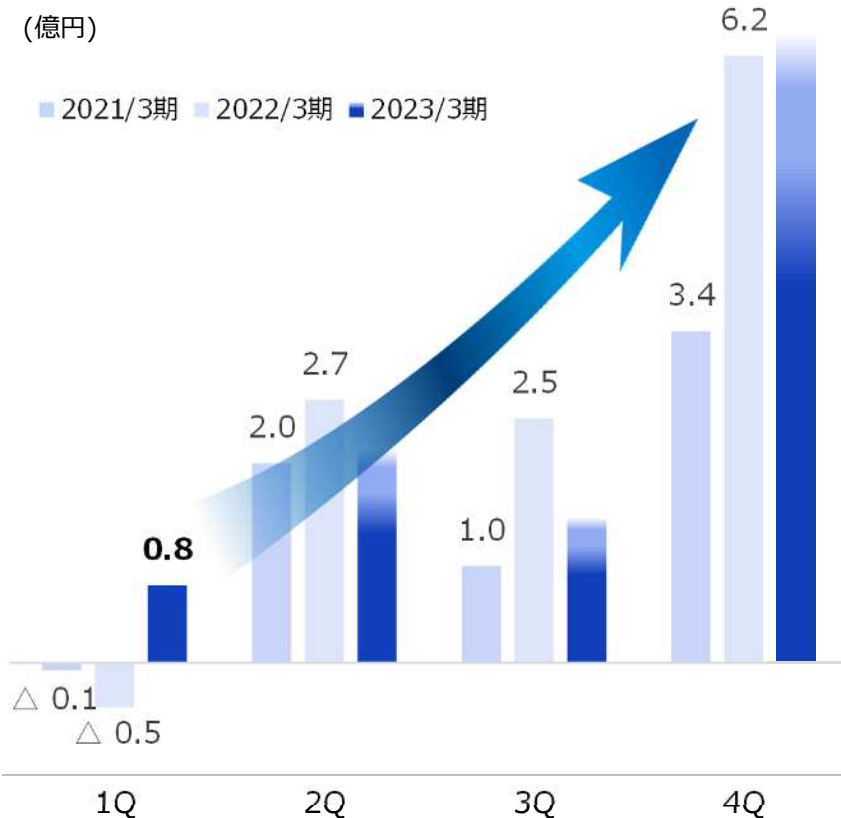


1-6. 2Q以降の展開見通し

- 通期業績見通しは据置き。売上面では過去最高を見込む
- 1Q時点の進捗率はまだ低いものの、期を追って利益水準は加速していくとの見通し
- 直近数期、納期の集中する下期偏重型の収益傾向は極めて顕著。当期もその展開に変化なし

四半期別営業利益

(2023/3月期2Q以降は想定)



2Q以降に向けての展開見通し

機能材料分野：

電子材料、医薬関連材料の量産ステージ
案件を中心に受注好調

医薬分野：

近年の傾向と同じく4Qに案件売上が集中の予定

バイオ分野：

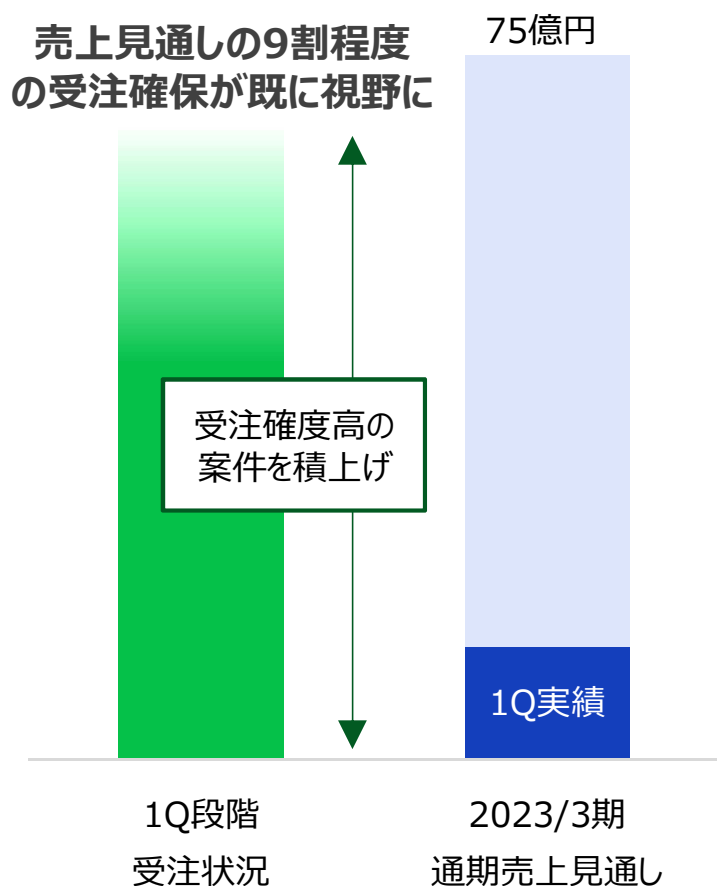
一部製品の期ズレを2Qに解消
量産・開発ステージ案件で堅調



1-7. 受注状況と当社の競争力

- 2023/3月期は既に通期見通しの約9割の受注確保が視野に。期末まで更なる積増しに注力
- 化学品製造の垂直分業化進捗と当社の高い技術対応力を背景に、ステージアップビジネスの成長に成功。受注状況は順調で、既に一部引き合いに応えきれない例も発生
- ただし、外部環境の懸念要因も多く、現時点では慎重な見方を崩さず、従来見通しを据置き

受注状況



当社の受注環境と当面のリスク要因

売上見通し約9割の受注確保



懸念事項

- 世界景気の先行き不透明感/在庫調整懸念
- グローバルサプライチェーンリスクの高まり
- 原材料/資材価格の高騰

「現時点では従来見通しを据置き」



< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先 経営企画部 IR担当 078-955-9900 (代表) knc-ir@kncweb.co.jp